

## 留学育英僧からのたより

この度のお集まりのご連絡、誠に有難うございました。しかし、大変心苦しいのですが、今回も私はドイツを離れることが出来ません。すでに1年半ほど日本に帰っておらず、そろそろ留学の経過を理事長にお話ししなければ、また私自身日本の空気を吸って、疲れを癒したいと思っておりますが、自分の研究の他に、10月からまた大学の授業が始まり、その準備で忙しくなりました。

また、この秋から市民学校で日本語を教えることとなりました。第1回目の授業はさすがに緊張しましたが、会社員や主婦など、ライブチヒの一般の市民の皆さんと出会えることは私自身興味深く、また、多少学費の助けにもなりますので、喜んでおります。

私自身の研究としては、ネパールのバクタブルという古都の300年ほど前の役所の記録文書を読んでおります。ネワール語という言葉で書かれていることに加え、今まであまり研究されていなかった分野ですので、読むのに苦勞しておりますが、Kolver先生や、ネパール人のMahesh Raj Pant先生などのご指導を受けて、少しずつですが、前進しているものと思っております。

次に日本に帰ることが出来る時期は、大学の授業の無い2月3月ですが、もしかすると、こちらで先生のご指導を受けるか、研究のためにネパールへ行かなければならないかかもしれず、確かなことは申し上げられません。

研究成果を挙げるのが、私の努めと思っております。日々感謝し、精進して参ります。

今回の欠席を重ねてお詫びいたしますとともに、理事長と、善光寺に集われる全ての方の、ますますのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

敬具

1995年10月14日

## 留学育英僧からのたより

### アメリカ在住

第6回育英生 陳 永裕 (韓国曹溪宗)

私は去る8月からアメリカの方に1年間のVisiting Scloar としてBerkeleyのI.B.S に来ております。前角老師のご円寂を深く哀悼致します。どんなにご落心なされたか、察してしみじみ感じておりました。

私の『華嚴観法の基礎的研究』は、日本でご援助を頂いて研究した結果のものでございます。韓国での日本語の出版ということで、誤字が見えて申しわけなく思っております。

私は1年間こちらパークレイにとまりながら、英語や西洋の文化を見聞して、来年6月末に韓国に帰る予定でございます。もし都合が出来れば帰る途中に日本によって、ごあいさつ申し上げたいと思っております。

去年は普陀寺の修行館の建立を完成し、去る3月に落成し、7月末には4年間の住職や館長職を終えて、1年間のアメリカ訪問をゆるされました。

季節もますます寒くなりますので、どうかご自愛のことお祈り致します。

### ドイツ・ライプチヒ在住

第9回育英生 佐藤 誠司

拝啓 黒田理事長様。こちらは、やはり大陸的気候のためでしょうか。日によって気温差が激しく、昨日は半袖、今日はジャンパーといった具合です。今年の秋は如何でしょうか。